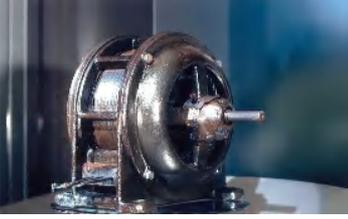


	<p><b>加藤與五郎、武井武によるフェライトの発明と齋藤憲三による事業化</b></p> <p>[カテゴリー] 人/モノ/こと</p> <p>【顕彰先】 東京工業大学, TDK株式会社</p> <p>【顕彰理由】 加藤與五郎、武井武の両博士による独創的な発明であるフェライトは、齋藤憲三氏による事業化において世界をリードした。電子材料「フェライト」の誕生は世界のエレクトロニクス産業の発展に大きく貢献し、現在も幅広い分野に利用されており非常に重要な役割を果たしている。</p> <p>(左写真下段は左から 加藤、武井、齋藤 写真提供: 東京工業大学, TDK (株))</p>
	<p><b>古賀逸策と水晶振動子</b></p> <p>[カテゴリー] 人/モノ/こと</p> <p>【顕彰先】 東京工業大学</p> <p>【顕彰理由】 古賀逸策は、1932年に世界で初めて周波数温度係数 10・7/°Cの水晶振動子を製作するなど、温度変化に対して極めて安定な発振をする水晶振動子を実験的および理論的に明らかにした。水晶振動子は時計、携帯電話、コンピュータなどほとんどの電子機器に使われており、古賀の成果は現代社会を支える技術の一つとなっている。</p> <p>(写真提供: 東京工業大学)</p>
	<p><b>5馬力誘導電動機および小平記念館</b></p> <p>[カテゴリー] モノ/場所</p> <p>【顕彰先】 株式会社 日立製作所</p> <p>【顕彰理由】 わが国初の純国産電動機である5馬力誘導電動機は、日本の電気事業発展の原点とも言える。また、小平記念館では本電動機をはじめとした歴史的な電気機器の数々が展示されており、日本人技術者の独創性や技術の継続・発展性を見いだすことができる。</p> <p>(写真提供: (株) 日立製作所)</p>
	<p><b>高柳健次郎と全電子式テレビジョン</b></p> <p>[カテゴリー] 人/モノ</p> <p>【顕彰先】 静岡大学 高柳記念未来技術創造館</p> <p>【顕彰理由】 浜松高等工業学校(現 静岡大学)の助教授であった高柳健次郎は、1926年、「イ」の字を伝送しブラウン管で受像する全電子式のテレビジョンを初めて実証した。その後も関連する技術開発を進め、テレビジョンの基本技術確立に大きく貢献し、日本のテレビジョン産業の隆盛に極めて重要な礎となった。</p> <p>(左写真は昭和5年5月 昭和天皇をお迎えしてのテレビジョン実験の様子, 左はその際の映像)</p> <p>(写真提供: 静岡大学 高柳記念未来技術創造館)</p>
	<p><b>電球形蛍光灯</b></p> <p>[カテゴリー] モノ</p> <p>【顕彰先】 東芝ライテック株式会社</p> <p>【顕彰理由】 高効率の蛍光管を小型化し電球形にする開発に内外の多くの技術者が挑戦した中で、東京芝浦電気(株)(当時)はボール形状の蛍光ランプを、1980年に世界で初めて商品化した。これをもとに、発光管ならびにインバータ回路の小型化技術を開発し、従来の白熱電球と同形状の電球形蛍光灯(左図)を商品化した成果は顕彰に値する。</p> <p>(左図は“ネオボールZリアル”の構造図 提供: 東芝ライテック (株))</p>
	<p><b>フルカラー大型映像表示装置 (オーロラビジョン)</b></p> <p>[カテゴリー] モノ</p> <p>【顕彰先】 三菱電機株式会社</p> <p>【顕彰理由】 フルカラー大型映像表示装置 (オーロラビジョン) は、1980年に米ドジャー・スタジアムに世界初導入後、スポーツ施設、商業施設、イベント会場等に導入され、常に技術革新を続けることで、最大・最長表示装置として6回のギネス認定を受けている。今日では、スポーツやエンターテインメントにおいて必要不可欠な情報伝達・演出手段となり、観客の楽しみ方に大きな変革をもたらした。</p> <p>(左写真はドバイ・メイダン競馬場 写真提供: 三菱電機 (株))</p>